

放射線生物研究センター

I	研究の水準	研究 34-2
II	質の向上度	研究 34-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の科学研究費助成事業の採択状況（継続・新規）は平均17件（約1億400万円）となっており、本務教員一人当たりでは年度平均2.2件（約1,390万円（間接経費含む））となっている。

観点1-2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度より、学外研究者との連携による論文発表を目標とした共同研究体制を整備し、重点領域研究として「放射線応答を通じた生体の多様性の解明」と「低線量（率）放射線に対する生物応答」の研究を推進している。

以上の状況等及び放射線生物研究センターの目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に放射線・化学物質影響科学の細目において卓越した研究成果がある。また、DNA修復とチェックポイント機構の解明等により、医学、基礎生物学の発展に寄与する研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、放射線・化学物質影響科学の「NBS1 蛋白機能の研究」があり、生物・医学分野の学術論文を評価する英国の学術評価機関から上位2%に該当する内容と評価されている。
- 社会、経済、文化面では、特に人類遺伝学の細目において特徴的な研究成果がある。
- 特徴的な業績として、人類遺伝学の「日本人患者サンプルの解析によるファンコニ貧血病態解明の研究」があり、ヒト疾患の病態解明に結び付いている。

以上の状況等及び放射線生物研究センターの目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、放射線生物研究センターの専任教員数は7名、提出された研究業績数は3件となっている。

学術面では、提出された研究業績3件（延べ6件）について判定した結果、「SS」は5割、「S」は5割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績1件（延べ2件）について判定した結果、「S」は10割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度に学外研究者との連携による論文発表を目標とした共同研究体制を整備し、重点領域研究として「放射線応答を通じた生体の多様性の解明」と「低線量（率）放射線に対する生物応答」の研究を推進している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 放射線・化学物質影響科学の「NBS1 蛋白機能の研究」が、生物・医学分野の学術論文を評価する英国の学術評価機関から上位 2% に該当する内容と評価されている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。